



中国における嫁入り道具事情



嫁入り道具とは文字通り嫁に行く時、実家から嫁ぎ先に持参する箆笥、鏡台などの道具の総称ですが、56もの民族を抱える中国では、それぞれに独特の文化があり、また時代や地域により持参物も様々です。

ですから、一概に「中国の嫁入り道具」と銘打って語るのは難しいことですので、ここでは主に漢民族の風習の一部を皆様を紹介したいと思います。

嫁入り道具の由来

古来、嫁入り道具は親の配慮として、娘が幸せに暮らせるよう生活費の足しや不意の出費などに備えることがメインでしたが、花嫁の実家の体裁や経済力を誇示する目的もあったようです。

嫁入り道具の華やかさは、花嫁側の身分と財力と権威の表れです。

娘が嫁ぎ先でより良い立場でいられるよう、真珠や宝石類の装飾品以外にも、縁起が良いとされる品物もたくさん持たせました。

嫁入り道具が多ければ多いほど、またそれらを運ぶ人数も多い方が、より一層実家の経済力が誇示されました。

なお、聞くところでは、昔の地主は娘が生まれたときにわざわざ酒を醸造し、甕に入れて地下に埋め、娘の結婚宴会の時に格別の祝い酒として参列者に振舞ったそうです。このお酒は“女兒紅”と呼ばれました。

古代の習慣

- ※ 結納の金品は、花婿の両親が花嫁の両親に贈呈します。それを嫁入り道具として花嫁の両親が娘に持たせることもあったようです。
- ※ 嫁入り道具は花嫁の私有物です。嫁ぎ先は無断で使用あるいは干渉できず、もし使用したい場合は必ず嫁の同意を得る必要がありました。嫁が不承知にもかかわらず、勝手に嫁入り道具に手を出すことは、古より非常に卑劣で名誉を汚す行為とされていました。
- ※ 花嫁が死去した場合、嫁入り道具は彼女の実子しか相続できません。もし子供がいない場合は花嫁の実家に相続させ、嫁ぎ先は一切それに立ち入ることが許されません。
- ※ もし夫から離縁状を出されたりあるいは自ら嫁ぎ先を出した場合、嫁入り道具は全て自己の財産として持ち出してよいとされていました。
- ※ 古来、女子は嫁入り道具の一部を生活の足しにしたり、夫の勉強などに援助したり、商売に投資したり、子供を養育することに費やしました。あるいは、子に相続させました。場合によっては、自分の地位を高める為、わざわざ夫に妾をもらうこともあり、その費用に充てることもあったようです。

光緒十五年（1889年）

下記の品々は、蘇州地区の嫁入り道具の例です。

銅、錫、磁器、象牙、竹、木で作られた道具をお揃いで持参しました。

銅の道具は 24 点： 洗面器、足あぶり、湯沸かし器など。

錫の道具は 41 点： スープ専用容器、徳利、魔法瓶など。

磁器は 135 点： 湯飲み、大皿、スープ皿など。

木製の家具 51 点： 長持、箆笥、本箱、食器戸棚、ドレッサー、浴槽など。

象牙用品： 箸、ベッドなど。

湖北省京山辺り（あるいは農村部）では、日常生活用品以外に、風車、水車、鋤、鎌、馬鍬などの農具を嫁入り道具として持たせています。

広東省の地主や富豪は、さらに屋敷と畑の契約書、のれん（店舗などの営業権）、使用人などを嫁入り道具として持たせることもありました。

一般の農家は、単に雑穀と米用の籠、重箱、ナイフ、ハサミ、ものさしなどの日用品を娘に持たせました。



1950–1960年代は物資が乏しく、配給制が実施され、嫁入り道具の満足な手配ができず、親は娘が仕事で得た収入の殆どを持たせたようです。

1970年代頃から少しずつ生活が向上し、都市部では“三回り一響き三十六足”が流行るようになりました。

“三回り”とは、自転車・ミシン・腕時計、“一響き”はステレオなどの音響機器、“三十六足”とは、ベッド・箆筒・ドレッサー・机・食卓・椅子の脚の数を指します。

近年

《上海地区の場合》

他の都市と違い、花婿側が支払う結納金と嫁入り道具には相当な金額を必要とします。

仮に夫がマンションを買ったら嫁の実家は内装費用を出し、家具や電気製品一式全て新品で揃えなければならないとか、車を購入し結婚式の費用を全額負担するとか、いろいろなケースがあります。

嫁入り道具として次のようなものを揃えなければなりません。

- 電化製品： テレビ、冷蔵庫、洗濯機、太陽光パネル、ステレオ、DVD 機器
- 家具： ソファ、食卓（大理石）、円卓（椅子 12 脚とセット）、ベッド（客室用）、金庫、ベッドのサイドボード
- 厨房： ガス台、魔法瓶、食器（お椀、箸、スプーン、キッチンナイフ、鍋セット）、炊飯器、電子レンジ、圧力鍋、蒸し器、ワイングラス、電気プレート、中華鍋、電気ポット、コーヒーカップ、グラス、お茶セット、飲用水機、フードミクサー
- 浴室： 洗面器、タオル、バスタオル、歯磨き粉、歯ブラシ、ドライヤ、スリッパ、ハンガー、ゴミ箱、トイレペーパー、雑巾など
- 居間： 果物プレート、花瓶、灰皿、盆栽、絨毯
- 寝室： 宝石箱、アイロン、アイロン台、ふとん、寝具
- 書斎： パソコン、パソコン用机、電話機
- 衣類： スーツ、シャツ、ベルト、靴など
- 個人用品： 下着、パジャマ、お財布、バッグ、基礎化粧品など



昔も今も縁起が良いものは相変わらず好まれ、寝室の布団の上あるいはテーブルの上に置かれています。

左の写真ではベッドの上に棗（ナツメ）、落花生、リュウガン、蓮の実で「早生貴子（宝のような子供が早く生まれますように）」と書いてあります。

これは次の意味があります。

早(Zao)は「棗」と同音、
 生(Sheng)は 落花生の「生」と同音、
 貴(Gui)はリュウガン（桂圆）の「桂」と同音、
 子(Zi)は蓮の実（蓮子）の「子」と同音

近年の中国は、経済発展が目覚ましく、それに伴い国民の生活レベルも格段に向上しています。それにつれ、嫁入り道具や結婚披露宴にかかる費用も年々増加の一方です。

時代が移り、嫁入り道具の品物も役割も徐々に変わりつつあります。

しかし、時代や民族の違い、生活レベルの違いはあっても、嫁ぐ娘さんへの最後の贈り物としての「嫁入り道具」に込める親の愛情は、いつの時代も不変だろうと思います。

以上、中国の嫁入り道具について的一端を紹介いたしました。